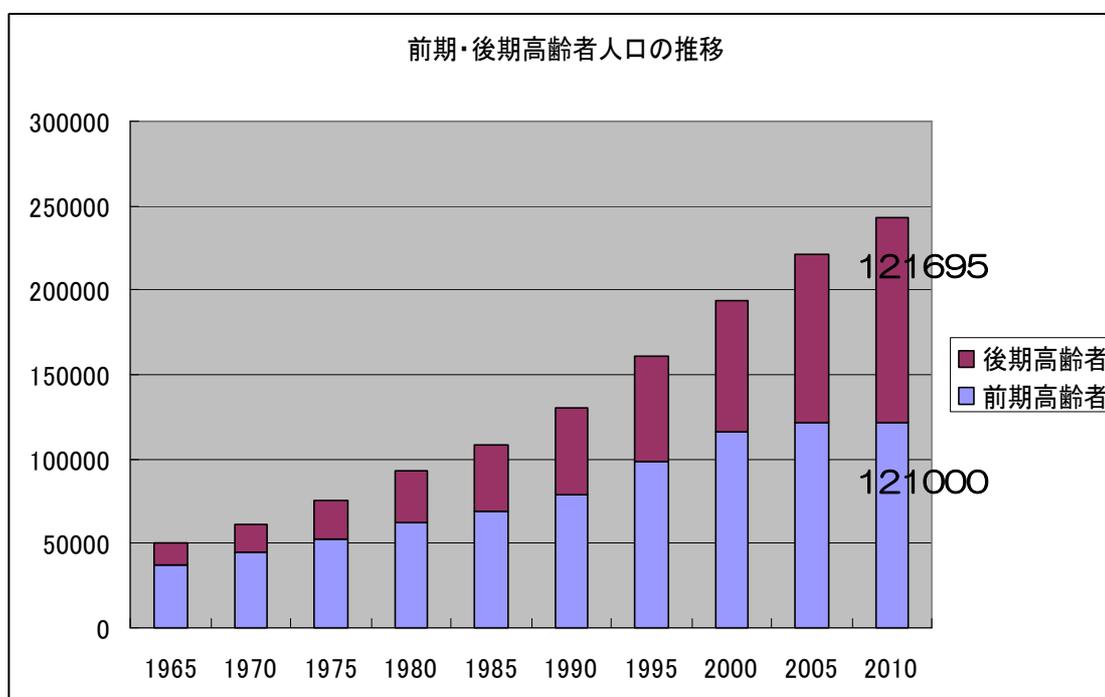
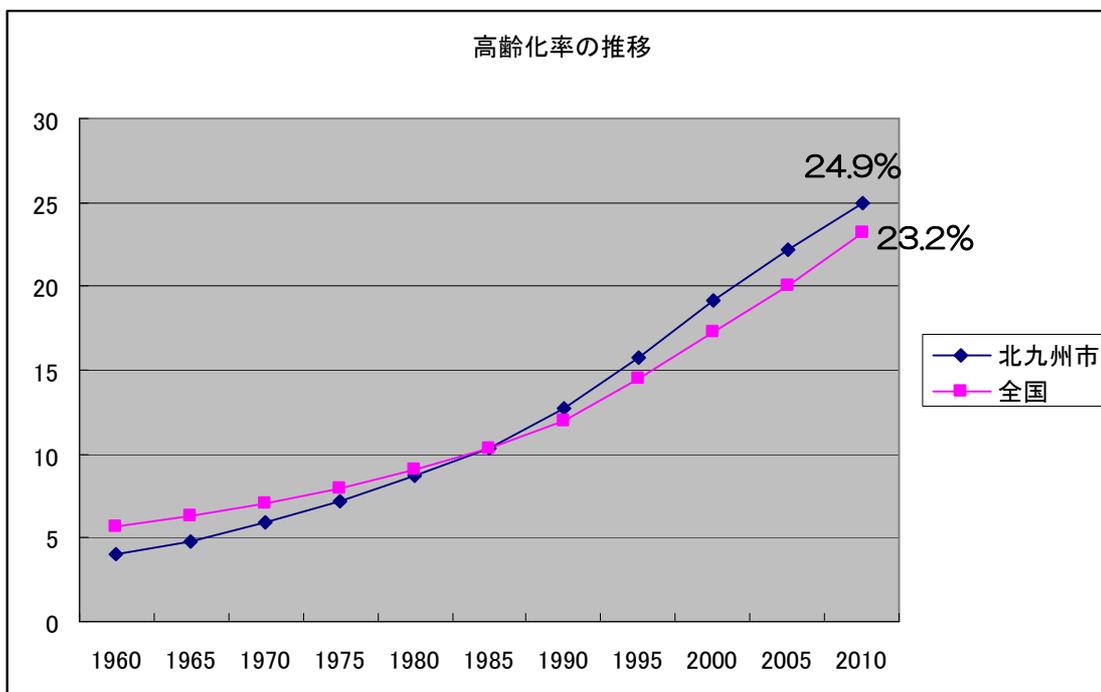
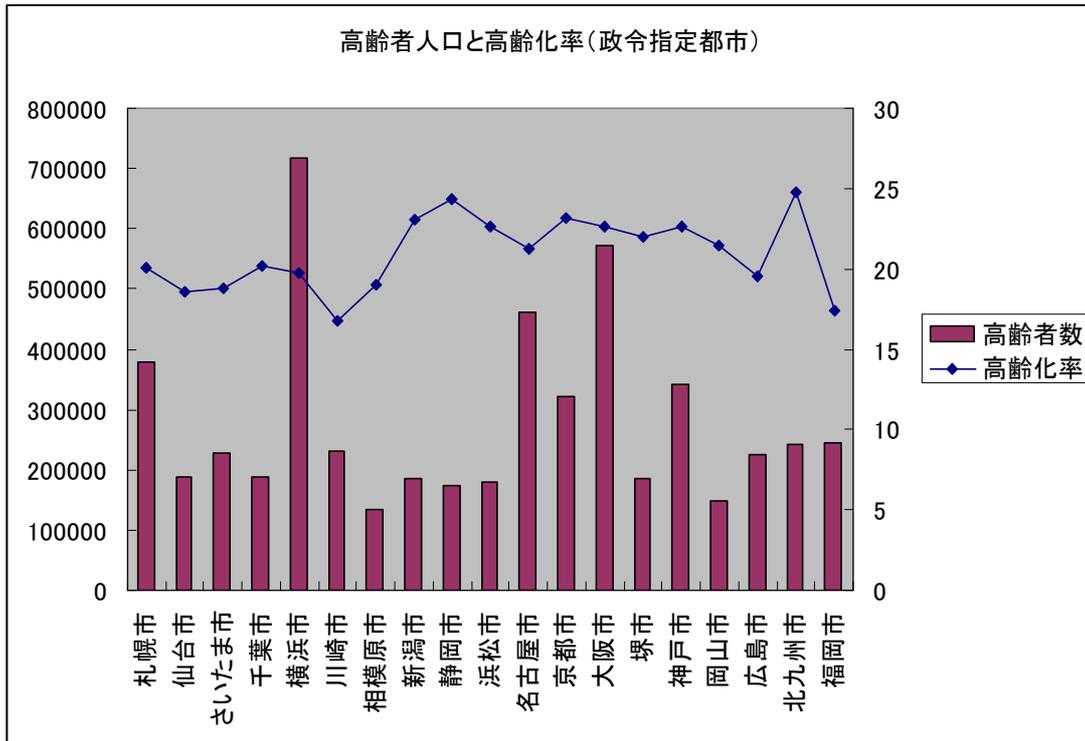


北九州市「よりよい介護をめざす連絡会」の取組み報告

【はじめに】

*北九州市の現状





【 発足の経過 】

2011年1月15日に「よりよい介護をめざす連絡会」は、北九州社会保障推進協議会（略称：北九社保協）の専門委員会として発足しました。北九社保協の専門委員会は、すでに国保部会と生保連絡会が発足しており、電話相談や制度の改善運動、行政との懇談などを行なっています。

北九州では2000年の介護保険制度開始前後にも「介護をよくする会」の活動が行なわれていましたが、近年はその活動も休止状況でした。そのような中で、北九州における介護の制度改善に対する取り組みの必要性と活動再開の要望もあり、「よりよい介護をめざす連絡会」が発足されることになりました。

「よりよい介護をめざす連絡会」は、介護に携わる人たちや、社会保障としての介護保険の改善に取り組んでいる人たちが構成しており、現在はケアマネジャー、介護職員、医師、介護事業所責任者、看護師、MSWなどが参加しています。

会の活動の目的としては次の6点を挙げています。

- ① 利用者の権利を守る立場に立つ
- ② 介護保険など諸制度を学習・習得する
- ③ 制度を活用し、充実させる実践を行なう
- ④ 制度の不備や不当な内容について連携と交渉で乗り越える努力を行なう
- ⑤ 介護保険制度などを改善する運動に取り組む
- ⑥ 地域での連携・ネットワーク構築の中心となる

【 活動経過 】

*定例会議

毎月 1 回開催し、現状認識、問題共有のための情報交換と学習、事例検討を行ない、今後の課題について論議。2011 年 11 月までで 10 回開催している。

*主な活動

- ・2011 年 1 月 15 日 「よりよい介護をめざす連絡会」発足総会・記念講演
- ・2011 年 7 月 8 日 北九州市介護保険課との懇談
- ・2011 年 9 月 9 月議会に陳情
- ・2011 年 11 月 12 日 「介護なんでも 110 番」電話相談

*今後の予定

- ・2011 年 12 月 北九州市保護課との懇談
- ・2012 年 1 月 28 日 市民講座
「介護保険制度と向き合う！改正介護保険法でどうなる」

【 事例 】

*ケース① (71 歳・男性)

- ・妻 (56 歳) と 2 人暮らし・前妻との間に長女がいるも、2 人の間に子どもはなし
- ・世帯の収入は本人の年金が月額 16 万円
- ・脳梗塞後遺症により、身障手帳 1 級取得
- ・要介護③で 4 点杖使用し、50m くらいは歩行可能だが、転倒のリスクは高い
- ・自宅ではデイケア 2 回/週、訪問看護 1 回/週、往診、福祉用具のレンタルを利用
- ・妻の病気療養が発生 ⇒ 介護者不在

→ ショートステイ利用？

→ 費用の問題発生！

サービスの利用を控えるしかない……

⇒妻の医療費発生

→ 限度額認定証発行など使える制度の案内、手続き、貯蓄の切り崩しで対応

*ケース② (81 歳・女性)

- ・大動脈弁置換術を行なった後、リハビリ目的での転院、病状自体は安定
- ・夫は大工、自身は調理員・清掃員などをしてきた
- ・無年金・生活費は同居の娘の稼働収入
- ・既往に脳梗塞はあるものの、入院前は身の回りのことはなんとか自立
- ・現在は生活全般に介助必要・要介護⑤
- ・保険料の滞納により 2 年間の給付制限 ⇒ 退院可能も長期療養継続中

＊ケース③ （94 歳・女性）

- ・肺炎により救急搬入されるも、病状自体は安定
- ・農家の嫁として農業に携わっていた
- ・無年金・生活費は家族の援助
- ・次男・孫一家との 7 人暮らし
- ・入院前より認知症状あり、農作業の合間に孫の嫁がオムツ交換などの介護
- ・車椅子使用しての移動・排泄はオムツ使用など生活全般に介助必要・要介護⑤
- ・保険料の滞納により 4 年間の給付制限 ⇒ 退院可能であったが長期療養となった後、肺炎にて死去…

【 今後の課題 】

「よりよい介護をめざす連絡会」は発足 1 年を迎えようとしています。

北九州市は、来年度の計画で特別養護老人ホームをユニット型で 700 床増床することを明らかにしています。それにより、特別養護老人ホームの待機者は解消できるとしていますが、市の統計資料で待機者としてカウントされているのは自宅で生活している人のみで、病院や老人保健施設などで待機している人についてはカウントされていません。また、事例に挙げたような経済的な問題のある人たちをどのように救うのかは全く明らかにされていません。

市民の立場から、次期高齢者支援計画や改訂される介護保険法について、問題提起を行い、改善に向けて運動を展開していくことが必要と考えています。